

やまぐち



公立大学法人
山口県立大学
Yamaguchi Prefectural University

桜の森 通信

2008.4 創刊号

山口県立大学広報誌

[特集]

理事長インタビュー

「法人化3年目を迎えて」



法人化後2年の歩み

講義紹介 研究室紹介

学生紹介
サークル紹介

留学生紹介

各種相談Q&A

平成20年度スタッフ紹介
当初予算概要

キャンパススケジュール・私が名付け親です

法人化3年目を 迎えて



江里 健輔 理事長(学長)プロフィール

昭和14年1月生まれ。
山口県立医科大学(現・山口大学医学部)卒業。
山口大学医学部教授、山口大学医学部附属病院
長、山口県立中央病院(現・山口県立総合医療セン
ター)院長を経て、平成18年4月より現職。
専門分野は外科(心臓血管外科学)。

平成18年4月、山口県立大学を設置・運営する「公立大学法人山口県立大学」が発足して2年が経過しました。法人化3年目にあたり、今後の抱負などについて、江里健輔理事長(学長)に話をうかがいました。

2年前に理事長・学長に就任されるまで、山口県立大学に対してどのような印象をお持ちでしたか。

江里 県立大学の存在は知っていましたが、女子大学のイメージが強く、男女共学で、総合



存在感のある大学であること

大学であるとの認識はありませんでした。長い間、宇部市にある山口大学医学部に在籍していたので、私の頭の中では極めて薄い存在でした。

公立大学法人山口県立大学の初代理事長、また学長に就任され、2年が経過しましたが、率直な感想はいかがですか。また、どのように自己評価されていますか。

江里 どこの大学も同じですが、「何故、今、独立行政法人化されるのか」ということが教員に十分理解されていないと感じています。日本の大学が国際競争で生き残るには、各大学がこれまでのように頑張っても頑張らなくても、国や県などから一定の運営資金が支給されるシステムは効率的でないことが判ってきました。ここに、独立行政法人化の理念があると思います。これを理解していただくために、この2年間、教員の「意識改革」と「全員参画」に努めてきました。

多くの教員は大学の危機感を認識され、いろいろな分野で積極的な行動が見られるようになりました。「継続は力なり」と言われているように、急がずに、諦めずに、教職員とともに学生さんに「本学の学生であって幸せ」と感じてもらい、社会に役立つ人材を養成し、地域に貢献する山口県立大学らしい大学にしたい。山の麓にたどり着き、やっと山の形が見えてきたという想いです。

今おっしゃられた教員の「意識改革」「全員参画」について、どのような形でその成果が表れていますか。

江里 外部研究資金等の積極的導入の観点から、科学研究費補助金、文部科学省大学教育改革支援採択プログラム、受託研究などの申請を積極的に推進してきました。特に、文部科学省大学教育改革支援採択プロジェクトの場合、1題採択

されるのも大変困難である中で、本学は平成19年度、7題申請のうち5題が採択されました。これは、本学教員のこれまでの地道な努力が高く評価された証しであり、旧態依然では大学の発展はないという意識改革が少しずつつなされてきた証しでもあると思っています。

毎月1回は必ず昼食を一緒にされるなど、学生とのふれあいを重視されていますね。学生との会話の中で何を一番感じておられますか。

江里 学生と接点を持つことで、学生のいろいろな想いを知ることができます。若者は、思い、感じを形容詞をつけずに直接伝えてくれるので、飾りけのない現実が手に取るように判り、本学のあり方を構築する上で良い参考になります。

山口県立大学で学ぶ学生へメッセージをお願いします。

江里 大学は「知の継承」「知の創造」「社会貢献」の3つを柱にした組織です。したがって、新しい知識を修得すると共に個性輝く人間を培うところでもあります。学問にいそむことは勿論ですが、先生、先輩あるいは後輩、さらにはサークル活動や地域の人々と接することで、心豊かな人間性が育まれることを期待しています。

山口県立大学を目指している高校生へメッセージをお願いします。

江里 大学全入時代を迎え、高校生が大学を選ぶ時代となりました。大学は大衆化し、従来のようにエリートを育てるのではなく、リーダーを育てる役割を担う組織となりました。高校生はどこで学んだということよりも、何を学んだかが問われることになりました。したがって、自分の人生目標を持って勉学に努めて欲

しいと思います。目標があれば達成感が得られ、満足でき、次への目標が立てられます。そのことが素晴らしい人間形成につながります。

今後、本学の教員に望まれることは何ですか。

江里 世間では「大学の教員ほど自分のことを第三者にとやかく言われるのを嫌う人種はいない」「他人に干渉されず自由気ままに振る舞える」という意味ではまあ「天国」といえなくもない「大学の教師にはロジックはあってもレトリックがない」などと揶揄されますが、これらはいずれも教員の強すぎる自尊心の表れであります。常に謙遜な気持ちで、大学教員としての資質を自問自答し、教育・研究への闘争心がなくなれば、即刻大学を辞めるという気概を持って欲しいと思います。また、教員に限らず、職員も依存から自律へ意識を改革し、今後の大学運営に一体となって取り組んでいただきたいと思えます。

今後4年間、引き続き理事長・学長として選任されましたが、どのような抱負をお持ちですか。

江里 「存在感のある大学」として、県民に山口県立大学があってほしいと言われる大学にしたいと思っています。そのためには、大学と地域が多面で接点を持つ機会を多く作りたいと考えています。

また、本学は国道9号線でキャンパスが分断されています。これは学生、教職員との連携を希薄にし、教育・研究に不都合なインフラになっていることは否定しませんが、少しでも早くキャンパス移転に取り組みたいです。それには県民の理解が不可欠で、「存在感のある大学」として輝くことが必要であると考えています。

▶▶▶▶ YPU New Wave

法人化後2年の歩み

- ▼平成18（2006）年4月、山口県立大学を設置・運営する「公立大学法人山口県立大学」が発足して2年が経過しました。
- ▼この独立行政法人化は、山口県立大学の自主的・自律的な大学運営を可能にし、厳しい大学間競争に勝ち抜き、県民にとってより存在感のある大学となるべく行われたものです。
- ▼今号は「法人化後2年の歩み」として、ニュースリリース（報道発表）したものを中心に、これまでの主な取り組みをご紹介します。



平成18年度

4月

- 公立大学法人山口県立大学が発足
中国・四国地方の公立大学10校のトップを切って地方独立行政法人に移行しました。
- 健康福祉学研究科健康福祉学専攻（博士後期課程）を開設
健康福祉の増進に寄与する高度な専門的知識や実践的能力を創造する研究者・教育者を育成するため、『健康福祉学研究科健康福祉学専攻（博士後期課程）』を開設しました。



9月

- 「EA（エコアクション）21」の認証取得
環境省のガイドラインに沿って自らが環境目標を設定し、その達成に向けて取り組む事業者として、国立大学では全国で初のEA21の認証を取得しました。

1月

- 野田学園高校と高大連携事業に関する協定を締結
山口県立大学と野田学園高校が相互に連携・交流を深めることにより、教育課程・教育内容の充実と学生および生徒の資質の向上を図るため、協定を締結しました。

3月

- 山口県立大学オリジナル「YPUクッキー」の完成
教員と学生が協力して山口県の農産物を使ったクッキーの開発に取り組み、『YPUクッキー』が完成し、多くのマスコミに取り上げられました。

- 大学基準協会の認証評価
国の認証評価機関である（財）大学基準協会の大学基準に適合していると認定され、特に本学が「地域貢献大学」として評価されました。



YPUクッキーの開発に取り組んだ学生を中心に、「SLやまぐち号」内で乗客の方にYPUクッキーを配布した時の1コマです。



平成19年度

4月 ○学部・学科の再編

特色ある教育・研究をより一層深め、また、地域社会との連携をさらに強めていくため、平成19年度の1年次入学生からを対象に学部・学科の再編を行いました。

(4学部6学科 [入学定員280人] →3学部5学科 [入学定員300人])

5月 ○国家試験合格率等の向上

住民の健康増進等に関わる様々な分野で活躍することができる能力を培うため、中期計画において、関係の国家試験合格率等の数値目標を掲げ、その達成に努めています。

管理栄養士国家試験…全国の大学で唯一2年連続合格率100%を達成

社会福祉士国家試験…本学合格者数78名(平成19年度)は、国公立大学中第1位

8月 ○アドミッション・オフィス (AO) 入試の導入

芸術・文化・スポーツ・ボランティア活動などで優れた実績があり、本学への明確な志望動機を持つ志願者を対象に、面接などを通じた総合的評価で入学者選抜を行うAO入試制度を導入しました。

(平成20年度AO入試…募集15人 志願者140人 合格者16人)



○大学教育改革支援プログラムに本学の5つの取組が採択

本学の地道で丁寧な組織的教育力が高く評価され、平成19年度の文部科学省の大学教育改革支援プログラムに、全国の公立大学で唯一、「特色GP」「現代GP」「学生支援GP」「社会人の学び直しGP」の4分野で5つのプロジェクトが採択され、合計2億4千万円(4年間)の財政支援が得られることになりました。(※GP…Good Practice 優れた取組)

地域共生演習(現代GP関連:やまぐち多世代交流・地域共生授業の展開)の1コマです。

○県評価委員会の業務実績評価

山口県公立大学法人評価委員会から、「法人化後の大学は、教育研究の質の向上や業務運営の改善に意欲的に取り組んでいる」として、中期計画の進捗は概ね順調との評価を得ました。

11月 ○地域交流スペース「Yucca (ユッカ)」がオープン

大学教育改革支援プログラムの「特色GP」に採択された事業の具体的展開の一つとして、大学と地域の交流を促進する拠点『山口県立大学地域交流スペースYucca (ユッカ)』を開設しました。



2月 ○山口市と包括的連携・協力に関する協定を締結

山口県立大学と山口市が包括的連携のもと、人的・知的資源の交流及び活用を図り、相互に協力して大学と地域の活性化に寄与することを目的とした協定を締結しました。



Watch Lecture

基礎セミナー

本学では平成19年度より1年生を対象に、必修の「基礎セミナー」を導入しました。学修や大学生活全般への円滑な移行を支援する試みなのですが、副専攻（環境システム、健康）への第一ステップとしても大変意義の深い授業となっています。

前期の「基礎セミナーⅠ」では、学修に必要な基礎的素養を育みます。講義は①基礎的な技法の習得②体験と実践を通した理解③知の醸成の3部構成。環境をテーマに「Plan（計画）」「Do（実行）」「Check（評価）」「Action（改善）」を取り入れたグループ学習と公開授業で、知識に裏打ちされた実践力を身につけます。

後期の「基礎セミナーⅡ」は、健やか

で豊かな大学生活を送るための健康教育。自らの生活から課題を見つけ、食生活の改善や運動・スポーツを取り入れた健康的なライフスタイルの確立を目指すとともに、喫煙、飲酒、薬物使用、性感染症といった健康阻害要因についても学びます。学生たちはこれらの実践活動から、自己管理に必要な知識と技術を習得します。

初年度の基礎セミナーⅡは、山口県の二井閑成知事に講師として授業をしていただきました。「住み良さ日本一の元気県づくり」と題して県の取り組みを紹介され、「環境」と「健康」についての考えを深める材料が提供されました。学生との質疑応答は大いに盛り上がり、とても楽しい講義でした。



Welcome to LAB

国際文化学部 文化創造学科
准教授 小南 英昭

地域特性を生かした新しい文化を発掘・創造・発信する「文化創造学科」で、企画プロデュース系に属したビジュアルデザイン（視覚情報伝達）の研究に取り組んでいます。目指すところは、地域に暮らす人々の豊かなライフスタイルを創出する、課題発見能力や企画力を備えたグローバルな人材の育成。例えば、企画・創造論の授業では、私たちが日々の社会生活の中で思い描く新しい「もの」や「こと」を芸術的視点から掘り下げ、表現・提案する能力を養います。

学生たちはこれらの授業を通して、課題発見、問題分析、問題解決、企画立案の方法論を身につけていくのですが、ここで私が最も理解して欲しいと願うのは「相手の身になって考える」ということ。イメージや情報を形にする平面構成実習、実践的に企画をプランニングする企画デザイン実習にしても、自分の考えを相手に伝えるためには欠



くことのできない大事な要素です。

今やデザインは、生活に密着しているだけでなく、コミュニケーションツールとしても重要な役割を担うようになりました。研究室では本学のシンボルマークをはじめ、行政機関や各種団体等のキャラクターやポスターデザインなども手がけ、地域とのかかわりを大切にしています。

看護栄養学部 看護学科
准教授 張替 直美

私の研究室では、慢性の病気を持つ人々が抱える問題に焦点を当て、特に21世紀の国民病とも呼ばれる「糖尿病」を中心に臨床や基礎実験を行っています。

本学に看護学科が開設されて12年になりますが、地域の実習病院を中心に、患者会活動や小児の糖尿病交流会の企画・運営にも学生と一緒に参加さ

せていただいています。このような活動を通じてゼミ生は、糖尿病患者が直面する様々な問題を真剣に考え、「患者さんの希望（HOPE）や自己効力を支える援助について」「アルコールや民間療法の利用について」「患者会・交流会の意義と学生ボランティアの役割」といったテーマを卒業論文にまとめてきました。また、糖尿病の合併症である末梢循環障害については、「足湯」と呼ばれる足浴の効果を測る基礎実験をもとに研究を深めています。

このようにして、実社会とかがわりながら卒業研究に取り組んできた多くの学生たちが、いまの医療・保健の現場を支える看護師や保健師として全国で活躍しています。中には専門看護師を目指して再入学した学生もおり、大変頼もしい限りです。科学技術が日々進歩する中で、研究室では今日も、新たな課題を見い出しながら研究活動を続けています。





▶▶▶▶ Interview Student's

いま、キミは輝いて *the National Athletic Meet*

3年後に迫った山口国体に向け、ますますスポーツへの関心が高まる地元・山口。県内トップアスリートの顔を持つ本学の学生たちも、トレーニングに、学業に、自らの目標に向かってキラキラと輝きながら、充実したキャンパスライフを送っています。

社会福祉学部
社会福祉学科3年

白神 有美さん

【走幅跳】



自分に勝ち続けたい

私の人生に欠くことのできない存在となった陸上との出会いは中学時代。陸上部のない学校だったのですが、先生に声をかけられて。種目は100mハードル。ソフトボール部の練習を終えた後に、先生とマンツーマンで毎日特訓しました。1年のジュニアオリンピックでいきなり日本一を経験し、すっかり熱が上がりましたね。ところがその後は成績が振るわず、3位以内を目標に挑んだ中学最後の全国大会も4位の悔しい結果に。でもその時に、先生が口にした「部活とかけ持ちだからっていうのが逃げ場になったかな」の一言で目が覚めました。甘えてちゃいけないって。「もう1回、全国1位をとろう」という先生との約束を胸に、本格的に陸上に打ち込むため下関商高に進み、死に物狂いで練習しました。高2で走幅跳に転向し、その年の国体で4位に入賞。翌年、高3のインターハイで優勝した時の感動は今でも忘れられません。照準を合わせて挑んだ試合で、積み重ねてきた自分の全てを出し切れた。あの達成感をもう一度味わいたくて、今も陸上を続けている気がします。

大学進学の際には、スポーツに専念

したい気持ちもありましたが、昔から興味があった福祉を学びたくてこの大学を選びました。校外に出てお年寄りと触れ合える時間が一番の楽しみになっています。私を励まし、応援して下さるたくさんの方に感謝しながら、強化選手にも選ばれた山口国体の3位入賞を目指して、これからも成長し続けていきます。



生活科学部
環境デザイン学科4年

原田 希有子さん

【山岳】



学業と両立する充実の毎日

大好きなデザインの勉強をしたかったことと、クライミングを続けたいという思いで、山口県立大学に進学しました。この学科は、あらゆる分野のデザインが幅広く学べ、とても充実しています。昨年後期から研究室でグラフィックデザインに取り組んでいるのですが、今はそれが楽しくて仕方がありません。とはいえ、クライミングは練習を欠かすとすぐに腕が落ちてしまいます。学校帰り

や土日を極力トレーニングに回し、忙しい学生生活を送っています。

山岳競技を始めたのは高校の時です。ワンダーフォーゲル部の先生に誘われ、最初は何となくだったのですが、入部してすぐに行われた北アルプス登頂で「これだ」と思いました。登りきった瞬間に目の前に広がった雄大なパノラマは、それまでの辛い道りを一瞬にして吹き飛ばしてくれた。8キロの荷物を背負って起伏の激しい山肌を走り抜ける縦走、切り立つ岩(壁)を登るクライミングと、山岳はハードなだけに練習も過酷ですが、それでも競技を続けてこられたのは仲間の存在があったからこそだと思います。

高2で国体デビューを果たし、昨年の秋田国体では最年少のチーム監督を務めました。女性競技人口の少ないスポーツだけに、自分が引っ張らなくてはというプレッシャーもありますが、地元開催の山口国体を目標にさらに上を目指します。好きな勉強と好きなスポーツ、それを両立している環境に恵まれた事とても幸せに思います。



▶▶▶▶ Circle Report

山口県立大学吹奏楽団 BLAZE(ブレイズ)

「BLAZE」は、平成15年度に結成された吹奏楽サークルです。それまで本学には吹奏楽団というものがなく、当時3回生だった先輩たちが少人数で細々と演奏活動を行っていましたが、元県警察音楽隊楽長の礒村光生氏を講師に迎え、吹奏楽団としての本格的な活動をスタートさせました。現在は岩崎隆司先生

の指導のもと、学校祭での演奏、一年の集大成となる定期演奏会のほか、山口市内で開かれるイベントへの参加、施設に出かけるの慰問演奏と、学内外で精力的に活動しています。また昨年は、BLAZE設立後初めて、全日本吹奏楽コンクール県大会出場を果たしました。

「BLAZE」は「きらめき、燃え上がるような色彩」という意味から、私たちの発展を願ってつけられた愛称。5年目に入ったばかりでまだまだ未熟な楽団ですが、この愛称に負けないう、団員みんな

なで力を合わせ、演奏を楽しみ、活動していきたいと思っています。

まもなく、山口県立大学ホームページで「BLAZE」演奏による学生歌「この空より高く～友よ～」が流れる予定です。



Exchange Program

交換留学

- ① 留学先大学の印象
- ② ホストファミリーとの1番の思い出／寮生活の1番の思い出
- ③ 留学中に訪れたお気に入りの場所とその理由
- ④ 留学先大学の授業の印象
- ⑤ 留学中に参加した課外活動と思い出

山口県立大学では、中国・韓国・アメリカ・カナダ・スペインの6大学と学術交流協定を締結し、交換留学、短期語学研修、共同研究等を実施しながら、学生や教員の交流、地域社会の国際化を進めています。

今回は2000年に学術交流協定を締結したアメリカ・ケンタッキー州のセンター大学との交換留学生にスポットを当てます。

●●● センター大学へ ●●●

山口県立大学
国際文化学部国際文化学科4年
大野 彩さん



- ① きれいで大きいと思いました。キャンパスがとても広くて最初は迷いました。
- ② ほぼ毎日図書館に深夜12時くらいまでこもっているのですが、寮で過ごしている時間自体が短いのですが、友達と過ごしたことが一番の思い出です。
- ③ シアトルです。冬休みを利用して遊びに行きました。シアトルではたくさんのお会いがあり、みなさんにとてもよくしていただいたので、とても楽しく過ごさせていただきました。
- ④ 授業の進度が早いのと、毎日大量の宿題が出ることに最初はとても驚きました。授業内容は日本と違って、ディスカッションがほとんど。生徒が積極的に学習しているという印象でした。
- ⑤ アメリカの小学校に行って授業を観察する機会がありました。2週間ちょっと行きました。授業にも参加させていただいたので、子どもたちが名前を覚えてくれ、とてもうれしかったのと、日本の教育との違いを直に見ることができ、大変興味深かったです。

●●● 山口県立大学へ ●●●

センター大学3年
Chase Wilsonさん
チェイス ウィルソン



手前右側がチェイス

- ① コンピュータ室に入る前に靴を脱いだり、食堂では学生の目の前で一人ひとりのために昼食が作られていたり、アメリカの大学では見られない光景に初日は驚きました。
- ② ホストファミリーと一緒に毎週、湯田の温泉に行ったことです。私とホストファーザーは、ホストマザーをよく待合室で寝ながら待っていました。
- ③ 屋久島の縄文杉です。留学仲間のドゥルー君と一緒に、ガイドなしで8時間かけて縄文杉まで迷わず歩いて行ったことが、良い経験と自信になりました。屋久島で、ある港へ行こうとバスを探していたら、声をかけてきた人が港に送ってくれ、ポンカンまでくれました。知らない土地でこのような素敵な出会いに恵まれ、親切にいただいたことに感謝しています。
- ④ 日本人学生の英語力上達のために、英語による授業が開講されていることはとても素晴らしいと思いました。私は特にWilson先生のCross-Cultural Awareness: East meets Westが好きで、日本人学生と英語で、日本とアメリカの文化の違いについて話し合いました。
- ⑤ 日本の成人式に袴を着て出席したことが大変良い思い出になりました。また、大学の陸上部で萩市で行われたハーフマラソン大会に出場し、1時間15分26秒で510人中9位の結果を残せました。

CENTRE COLLEGE アメリカ・ケンタッキー州



センター大学は、ケンタッキー州の中心部に位置するダンビルという町にあります。1819年に創立された歴史ある大学で、学生総数は約1,150人（女性51％・男性49％）。世界13カ国から留学生を受け入れています。2007 US News & World Reportでは、名門リベラルアーツ大学の一つに選ばれました。

フランス・イギリス・日本・ラテンアメリカに姉妹校があり、インド・ヴェトナム・ニュージーランド・ギリシャ・インドネシア・オーストラリア・カメルーンなどで行っている短期スタディプログラムでは、研修と同時に現地の生活を体験できます。海外研修が充実しているセンター大学では、2006年度卒業生の86％がこれらの国々に出かけました。

また、学生の96％が学内にある寮で暮らしており、たくさんの留学生がアメリカ人学生と一緒にインターナショナルハウスで共同生活を送っています。スポーツや学内組織（クラブやサークル）、ボランティア活動なども盛んで、留学生クラブでは、文化フェスティバルでお互いの食べ物や音楽、伝統的衣装を披露し合い、交流しています。日本人留学生は他の学生と一緒に料理をしたり、レストランや映画に行き、交流を図っています。

センター大学と山口県立大学の
これまでの交流実績

センター大学への派遣（8カ月）…18名
センター大学からの受入（4カ月）…27名



▶▶▶▶ Consultation

相談の森

皆さんから寄せられたさまざまなご質問に、専門領域の本学の教員がお答えします。

Q

私の父は65歳まですごく元気でした。食欲旺盛で、肉類を好んで良く食べていました。それが数カ月前の早朝、気分が悪い、胸が詰まる、胸が裂けるように痛い、息が出来ない、どうかしてくれと叫びながら亡くなったのです。母が救急車を呼びましたが、間に合いませんでした。最後の言葉も残せずに死んでしまい、可愛いそうで。その一方で、家族がもっと早く異常に気づけなかったのかと、残念でたまりません。父の容体はどうなっていたのでしょうか？

A

いわゆる「突然死」です。これは症状発現後1時間以内に、心臓が原因で死亡するものです。

原因はいろいろとありますが、突然死の60～80%は虚血性心疾患で、心臓を栄養する血管、これを冠動脈と呼びますが、この血管が血栓（血の塊）などで突然閉塞し、その血管支配領域の心筋に血液が流れなくなり、心筋が酸素不足となって心臓の機能が突然失われるものです（組織が酸素不足に陥りますと、血中の乳酸などが増えますので、痛みが生じます）。主な虚血性心疾患には心筋梗塞と狭心症があり、突然死は心筋梗塞です。

では、どうすれば良いかです。当然ですが、突然死の原因である心筋梗塞にかからないことです。これは、冠動脈の内腔に豆腐のからのような物が貯まることにより引き起こされます。この発生を防ぐことが出来れば、心筋梗塞になる可能性は非常に低くなります。この発生の危険因子は高血圧、高脂血症、糖尿病、喫煙などです。したがって、心筋梗塞から免れるためには高血圧、喫煙などの危険因子を避けるよう努めることです。

まずは、通常の生活に気をつけることが大事です。良く運動し、植物性蛋白をたくさん摂取し、禁煙し、血糖値を正常に保つておくことです。そんなに難しいことはありません。特にタバコは体に有害で、私は「死刑台の白けむり」と揶揄しています。「生」はけむりのように頼りないものですが、白い煙は「生」を益々むなしくさせます。

歩行もせず、肉ばかり食べ、糖分をたくさんとり、その上喫煙し、突然死すれば自業自得ですが、「苦しい、苦しい」と言いながら、寿命を断つことも出来ない場合もあります。この方がさらに、さらに厳しいです。皆さんも自身の生活を振り返り、じっくり考えてみて下さい。



学長 江里 健輔
(専門領域:心臓血管外科学)

Q

最近、年齢のせいかわ物事を判断する能力が少し衰えたかなと感じる時があり、リフォーム詐欺などの報道に接する度に、悪徳商法などの食べ物にされはしないかと不安です。まだしっかりしているうちに、将来に備えたいと思います。どうしたらよいでしょうか。

A

成年後見制度の大改革の中で新たに制定された「任意後見契約に関する法律」に定められている「任意後見制度」を利用されることをおすすめします。任意後見制度は、本人の意思能力（契約などの法律行為の結果を完全に弁別することができる判断力）があるうちに任意後見人となる者と任意後見契約を締結し、将来、精神上的の障害（認知症や精神障害など）により事理弁識能力（法律行為の結果から生ずる利害得失を判断することができる能力）が不十分な状況になった場合に、この契約に基づいて任意後見人が本人の保護（任意後見）を行うものです。本人保護は、本人の生活、療養看護および財産管理に関する事務のうち、任意後見契約で定められるその全部または一部について代理すること（法律行為の代理）であり、身の回りの世話などの事実行為は含まれませんし、未成年者の場合のように本人の行為能力（単独で完全に有効な法律行為をする能力）を制限するものでもありません。本人保護にあたっては、本人の意思を尊重するとともに、その心身の状態および生活の状況に配慮しなければならない義務が任意後見人に課せられています。

任意後見契約は、本人の事理弁識能力が不十分なときに、任意後見人に代理権を与えるものですので、本人保護の観点から、家庭裁判所によって任意後見人の事務遂行を監督する任意後見監督人が選任された時にその効力が発生します。また、任意後見監督人の選任は、任意後見の開始を意味するので、自己決定の尊重の観点から、本人による選任申立の場合本人の同意がある場合に限られます。任意後見契約は、本人意思（真意）の適正な確認等のために、公正証書によって行わなければならないとされています。

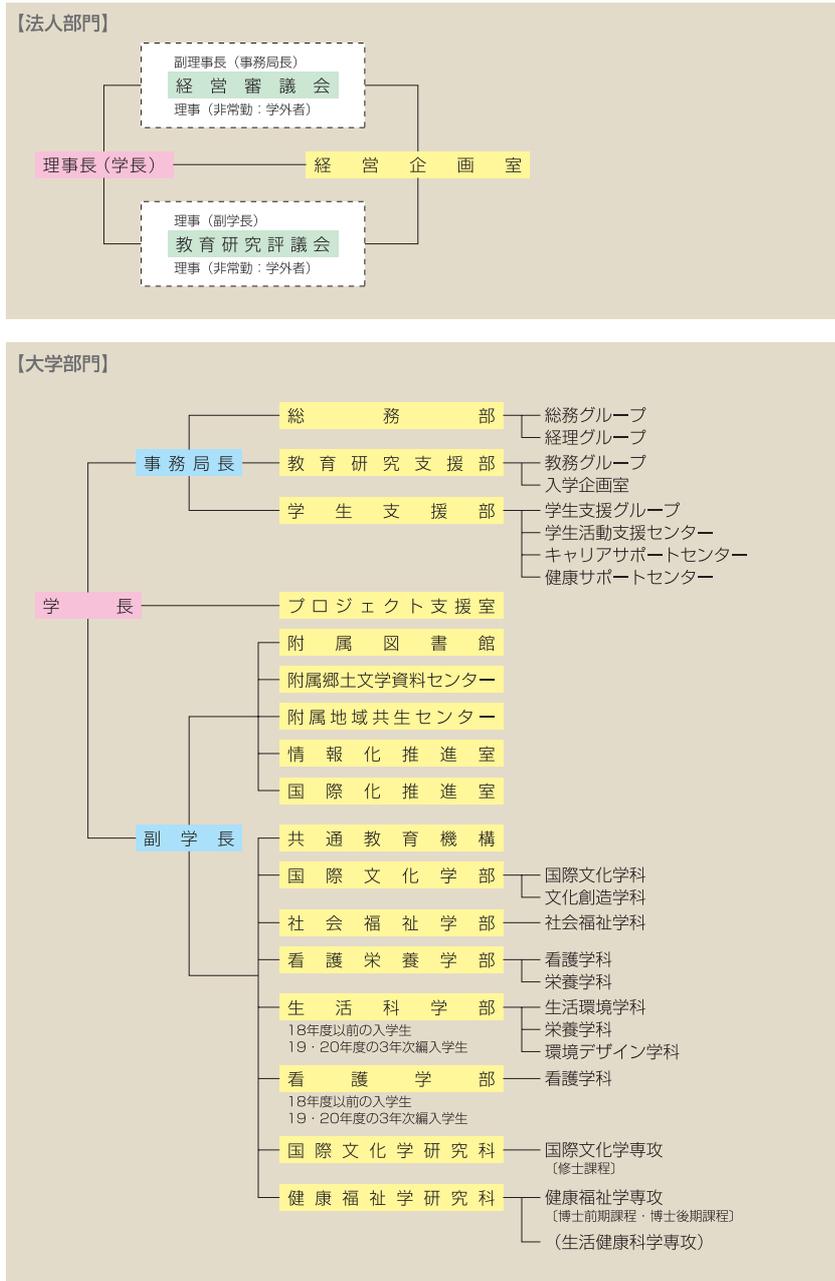
なお、任意後見契約を締結していない場合は、民法が定める法定後見制度（後見・保佐・補助）による保護を受けることができます。ただし、この制度では、任意後見制度のように本人が自己の保護者を選択し、保護の内容を決定することはできません。



社会福祉学部社会福祉学科
准教授 藪本 知二
(専門領域:民法学)

平成20年度の組織と役員・委員・幹部職員です。

組織図



法人部門

(役員)

理事長	江里 健輔
副理事長	伊嶋 正之
理事(常勤)	三島 正英
理事(非常勤)	古谷 正二
理事(非常勤)	辻田 昌次
監事(非常勤)	宇高 壽子
監事(非常勤)	越智 博

(経営審議会：学外委員)

古谷 正二	(株)エフエム山口代表取締役社長
川久保賢隆	(株)岡計測器サービス代表取締役
河野 康志	(株)マルニ代表取締役社長
島添美葉子	消費生活アドバイザー
吉村 京	山口県立大学同窓会(桜園会)会長

(教育研究評議会：学外委員)

辻田 昌次	法界寺住職
沖浦 初孝	元山口県高等学校長協会会長

経営企画室長 阿野 徹生

大学部門

学長	江里 健輔
副学長	三島 正英
国際文化学部長	松田 理
社会福祉学部長	田中耕太郎
看護栄養学部長	藤村 孝枝
生活科学学部長	長坂 祐二
看護学部長	藤村 孝枝
国際文化学研究科長	相原 次男
健康福祉学研究科長	長坂 祐二
共通教育機構長	松尾 洋
附属図書館長	市村 孝雄
附属郷土文学資料センター所長	稲田 秀雄
附属地域共生センター所長	赤羽 潔
情報化推進室長	市村 孝雄
国際化推進室長	岩野 雅子
事務局長	伊嶋 正之
総務部長	松下 良三
教育研究支援部長	青木 邦男
学生支援部長	田中マキ子

平成20年度の新規採用職員です。どうぞよろしくお願ひします。

教員

国際文化学部国際文化学科	講師	張 玉玲
社会福祉学部社会福祉学科	講師	高木 健志
看護栄養学部栄養学科	講師	園田 純子
プロジェクト支援室	特任教員	関屋 建三
社会福祉学部社会福祉学科	助手	合屋さゆり
看護栄養学部看護学科	助手	西山真由美
看護栄養学部栄養学科	助手	佐々木亜希
看護栄養学部栄養学科	助手	藤野加奈子

事務職員

総務部総務グループ	山本 和広
総務部経理グループ	植田 博晃
教育研究支援部教務グループ	宗内恵美子
附属図書館	藤井 佳代
附属地域共生センター	萬井美貴子
国際化推進室	中島 玲子

※これまでの事務職員（常勤）はすべて、県からの派遣職員でしたが、上記の者は法人で採用した初めての事務職員（常勤）となります。



平成20年度の予算 ～中期計画推進ステップ予算～

【当初予算の総額】

(単位 千円)

区 分	平成20年度 A	平成19年度 B	A - B = C	C / B (%)
収入支出予算額	2,117,475	2,006,523	110,952	5.5

【新しい取組などの紹介】

教育・学生支援・学び直しプロジェクト (GP補助金事業) の推進

現代GP	やまぐち多世代交流・地域共生授業の展開 持続可能な社会に繋がる人的財産の育成
特色GP	重層的学生支援教育による福祉人材養成
学生支援GP	総合的人間関係力を涵養する学生支援
学び直しGP	栄養士キャリアアップ支援プログラムの開発

副専攻制度の創設

専門分野(主専攻)以外の分野の授業科目を体系的に学修することにより、多様な知識と能力を身に付けることができる「副専攻」制度を創設します。「環境システム」と「健康」の2分野です。

特色ある新たな授業科目の開講

新たな教育課程(学部学科再編等)や副専攻制度の創設に伴い、「プレゼンテーション実習(文化創造学科)」、「精神保健学(精神保健福祉士課程)」、「エコアクション21構築実習(副専攻)など、特色ある授業科目が始まります。



オープンカレッジの開催

大学の授業を公開する「公開授業」、出前でお届けする「公開講座」、ちょっとアカデミックな「やまぐち桜の森カレッジ」や「サテライトカレッジ」、専門コースの「キャリアアップ研修」など、さまざまなオープンカレッジを開催しています。ぜひ一度ご参加ください。お待ちしております!!



平成20年度開設予定の講座やその日程など、くわしいご案内は、別途発行予定の「生涯学習・リカレント教育情報」やホームページなどでお知らせします。お気軽にお問い合わせください。

YPUドリームアドベンチャープロジェクト

個人やグループが自主的に企画・運営する独創的で魅力あるプロジェクトに、1件あたり最高30万円までの支援をします。

学生スタッフ制度の創設

大学の業務や地域活動に主体的に参画し、社会体験を積むことができます。併せて奨励費もゲット!!



学生への支援は?



TA(ティーチングアシスタント)・RA(リサーチアシスタント)制度の創設

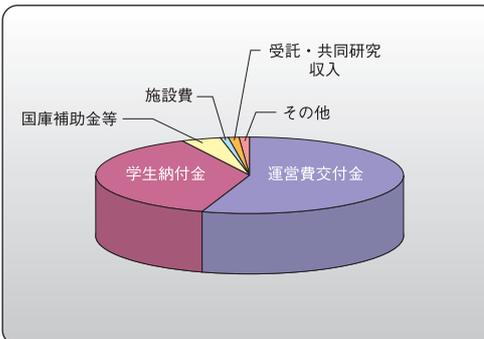
大学院生が、大学の教育補助業務(TA)や、研究補助業務(RA)に参画することで、自らの教育研究能力の向上を図ることができます。わずかですが、謝金も出ます。

学生利用施設的环境整備

自学自習室(「学習棟(仮称)」、健康サポートセンター、課外活動施設(有隣館)など、学生利用施設を整備、利用環境の改善をします。AED(自動体外式除細動器)も設置します。

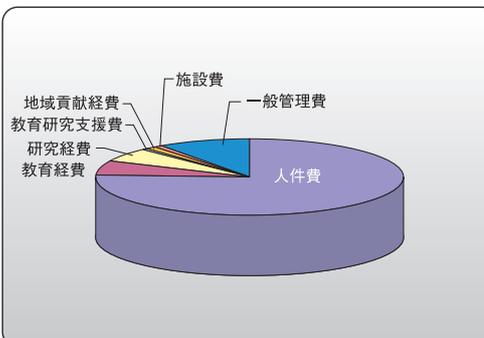
授業料の免除や奨学金の貸与を受けることもできます。

【収入】



- ◆運営費交付金と学生納付金とで19億9千万円と全体の94.0%を占めています。
- ◆運営費交付金は、中期計画期間中(平成18~23年度)の総額62億円の範囲内で、山口県から交付されます。(2011億75百万円)
- ◆平成20年度は、GP補助金を獲得したため、国庫補助金等(2074百万円)が一挙に増えました!
- ◆受託・共同研究収入は、毎年、20%増の獲得を目指しています。(2014百万円)

【支出】



- ◆人件費が支出予算総額の約3/4(75.5%)を占めています。なお、人件費の約80%(12億58百万円)は教員人件費となっています。
- ◆GP補助金による事業を行うため、教育経費(60.3%の増)や地域貢献費(49.2%の増)は、大きな伸びとなっています。

今年度は「国際化」の推進にも取り組みます。



姉妹校との交流

学術交流協定提携校の3大学(センター大学、ビショップス大学、慶南大学校)に訪問団を派遣、今後の交流課題について話し合います。

留学生地域交流

留学生と地域社会との国際交流を促進するため、県内小中学校での留学生による国際理解教育講座を開催します。「知っていますか? 県立大学-留学生との出会いから始まる世界への窓」

国際共同研究調査

特定領域について海外の大学と行う国際共同研究の実現可能性について、協議を進めます。(候補大学: ハワイ大学、慶北大学校保健学大学院、青島大学)

外国語のホームページやパンフレットをつくるなど、海外に向けた広報活動も活発化します。

Campus Schedule

- 4 APR 入学式、新入生宿泊オリエンテーション、前期授業開始
- 5 MAY 開学記念日・開学記念行事
- 6 JUN 水無月祭
- 7 JUL グローバル学生交流、オープンキャンパス、前期末試験
- 8 AUG 夏季休業、夏期海外短期語学研修、AO入学試験(一次選抜)
- 9 SEP 秋季卒業式、AO入学試験(二次選抜)、3年次編入学試験
- 10 OCT 後期授業開始、大学院(修士・博士前期)入学試験
- 11 NOV 華月祭、推薦選抜試験、社会人特別選抜試験
- 12 DEC 大学院(博士後期)入学試験、冬季休業
- 1 JAN 授業再開、大学入試センター試験
- 2 FEB 後期末試験、個別学力検査(前期日程)、外国留学生特別選抜試験
- 3 MAR 個別学力検査(後期日程)、卒業式、春季休業

私が名付け親です



山口県立大学広報誌の愛称名を学内公募し、多くの応募の中から大学院国際文化学研究科2年の笹田剛志さん(写真)から提案のあった「やまぐち桜の森通信」が選ばれました。

「やまぐち」…山口をひらがなで表記することでやわらかく柔軟な印象を与え、山口県の大学として山口市だけでなく広く地域と関わっていることを示します。

「桜」…桜島の「桜」であり、日本の誰もが好む花です。

「の森」…木が集まっていることから、知の集結、人の交流、学問の広がりを連想させます。

編集後記

平成20年3月春分の日 阿野 徹生(経営企画室長)

この「やまぐち桜の森通信」創刊号が、皆様のお手元に届く頃は、桜前線はどのあたりまで北上しているのでしょうか。お近くの桜は、表紙を飾った桜のように満開でしょうか?多くの広報誌が発行されている中で、「まず皆様に、山口県立大学広報誌を手にとっていただく」をモットーに創刊の準備を進めてきました。今回、手に取っていただいたとしても、表紙の桜に助けってもらった感否めないでしょう。桜は漏れなく人々に感動を与えます。しかし、広報誌はそういうわけにはいきません。「存在感のある山口県立大学」を目指して、多くの皆様に愛される「やまぐち桜の森通信」を目指して、全員参加型の広報誌づくりを進めてまいります。大学の内外を問わず、多くの皆様からの読後の感想やご意見、お知恵や情報をお待ちしております。



〒753-8502 山口県山口市桜島3丁目2番1号
Tel.083-928-0211 Fax.083-928-2251
<http://www.yamaguchi-pu.ac.jp/>
※Web動画配信も行っています。

※広報誌の標題は、理事長の直筆です。

